

# 「生物学に関する試験研究論叢」執筆要領

## 1. 原稿・ワープロソフト入力

原稿執筆には・原則としてワープロソフトを用い、A4判の用紙とする。

## 2. 表題

原稿第1ページに・表題（研究助成申請書に記載したもの）、所属（機関・部局）、報告者名（助成者名のみ）を記す。

## 3. 本文

- 1) 原稿は原則として日本語で執筆し、“はじめに”，“材料と方法”，“結果”，“考察”，“要約”，“文献”の順に構成する。
- 2) 原稿は原則として常用漢字，新仮名遣いによる。
- 3) 句読点には全角ピリオド「.」とコンマ「,」を用いる。「。」と「,」は用いない。
- 4) 本文に節を設ける場合，1., 2., 3., のようにピリオドをつけて節を示す。節の見出しは簡潔にする。  
大見出しの場合，書出しとの間に1行あける。
- 5) 術語，物質名などは，できるだけ日本語で表し，必要に応じてその原語を（ ）で示す。ただし，広く用いられている略語（例えば，DNA）については，そのまま用いる。
- 6) 人名は姓の原綴りで示す。
- 7) 単位記号，化学記号，数字記号は立体，量記号は斜体とする。  
(例)  $\mu\text{m}$ ,  $\text{cm}$ ,  $\text{g}$ ,  $\text{mV}$ ,  $\text{ml}$
- 8) 数字は・原則としてアラビア数字を用いる。ただし，漢字と結合して熟語となっている数字は漢字とする。  
(例) 一つ，2～3時間，50個，一例，数十個

## 4. 図表

- 1) **表はそれだけ別紙に作成し**（文字は原則として9ポイント明朝体。横線のみを使用し，縦線は用いない。），簡潔な標題と必要な説明（日本語）は，本文末にまとめて表記する。表1枚の刷り上がり大きさは・標題と説明を含めて原則として13cm（横）×20cm（縦）以内とする。
- 2) **図面原稿は，それだけ本文とは別紙こ，刷り上がりの大きさの1.5～2倍**（但し，最大A4サイズまで）で描く。図には必ず簡潔な標題（日本語）と必要な説明（日本語）をつけて本文末にまとめて表記する。図1枚の刷り上がり大きさは，標題と説明を含めて原則として13cm（横）×20cm（縦）以内とする。
- 3) **写真（印画紙こ焼きつけたもの）は図に準じて取り扱う。写真はカラー原稿であっても白黒写真ととして掲載される。**
- 4) 写真や小さな図はA4判の台紙に軽く貼りつけて，上方向がわかるように矢印と文字「上」で指示する。
- 5) 図および表の表示は，図1，図2・・・，表1，表2・・・の例に従う。本文中にこれらを挿入す

る箇所を、原稿用紙の余白に示す。

6) 図、表、写真はすべてスキャナーで読み込むので、鮮明かつわかりやすい内容に作成する。

## 5. 引用文献

1) 引用文献は、本文中での適合箇所に、通し番号を右肩につけて示し、文末に通し番号順にまとめて掲げる。

(例) 松田によると<sup>1-5)</sup>、……で<sup>6, 8, 9)</sup>

2) 文末の引用文献の記載は、次のようにする。

[雑誌の場合] 通し番号) 著者名: 雑誌名, 巻数, ページ(発行年)

[単行本の場合] 通し番号) 著者名: 書名, ページ, 発行所, 発行都市名(発行年)

( ) 及び( ), :は全て全角 )

- 1) Iwata K, Yoshida M, Morita H: J Transport Res, 110:125-138(1992)
- 2) 小嶋光信, 高橋克明, 山口垣夫: 基礎および応用生物学の諸問題, pp10-25, 両備出版, 岡山(1998)
- 3) Sander K: In "A History of Embryology", Horder TJ, Witkoski JA, Wylie CC, eds, pp363-395, Cambridge University Press, New York(1986)

なお、著者名のイニシャルと雑誌名の略記にピリオドを用いない。また、著者名は姓・名ともに全員を列記し、「他」「et al.」を使用しない。

## 6. 原稿の提出

原稿には、必ずCDまたはそれに準ずる媒体を添付する。フロッピーディスクのラベルに氏名、タイトル、ワープロソフト名を記す。また、MS-DOSテキストファイルに変換したファイルも添付する。

## 7. 著者校正

著者校正を1回行う。その際、誤植以外の修正、図版の修正は原則として認められない。校正刷りは到着後2日以内に返送すること。